

Symantec NetBackup™ Appliance リリースノート

リリース 2.6.1

NetBackup 52xx、5330



Symantec NetBackup™ Appliance リリースノート

マニュアルバージョン: 2.6.1

法的通知と登録商標

Copyright © 2014 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴ、および NetBackup は、Symantec Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のまま提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

目次

第 1 章	NetBackup Appliance 2.6.1 の機能、拡張機能、変更	5
	NetBackup 5330 のハードウェアの機能	5
	NetBackup 5330 アプライアンスのストレージユニットについて	7
	NetBackup 52xx のハードウェアの機能	8
	NetBackup Appliance 2.6.1 の新機能、拡張機能、および変更について	11
	NetBackup Appliance 2.6.1 の新機能、拡張機能、変更	11
	SAN クライアントのファイバートランスポート用の拡張されたターゲット ポート設定のサポート	13
第 2 章	NetBackup Appliance の互換性	15
	NetBackup Appliance 2.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについて	15
	ソフトウェアリリース形式について	16
	NetBackup Appliance リリースの互換性	16
	NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて	18
	NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知	19
第 3 章	操作上の注意	20
	NetBackup Appliance 2.6.1 の運用上の注意について	20
	NetBackup Appliance 2.6.1 の操作上の注意	21
	NetBackup Appliance の一般的な注意	24
	NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意	24
	インストールと構成の注意	26
	アップグレードとロールバックの注意	27
	VMware に関する注意事項	28
	国際化とローカライゼーションの注意	28
	NetBackup サポートユーティリティについて	29
	NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)	29
	NetBackup サポートユーティリティ (nbsu)	31
	その他の利用可能なサポートについて	31
	ログファイルの使用について	31

付録 A	リリース内容	34
	現在のリリースの内容について	34
	NetBackup Appliance 2.6.1 のリリース内容	35
付録 B	関連ドキュメント	37
	NetBackup Appliance のマニュアルについて	37

NetBackup Appliance 2.6.1 の機能、拡張機能、変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 5330 のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup 52xx のハードウェアの機能](#)
- [NetBackup Appliance 2.6.1 の新機能、拡張機能、および変更について](#)
- [NetBackup Appliance 2.6.1 の新機能、拡張機能、変更](#)

NetBackup 5330 のハードウェアの機能

2.6.1 リリースで、シマンテック社は自信をもって NetBackup 5330 アプライアンスを導入します。

NetBackup 5330 は、より大きなストレージ容量、RAM、またこれまでの NetBackup Appliance を上回る速度を備えています。また、他の NetBackup Appliance と比較して、追加の 10 GB イーサネットポートからより大きな I/O 容量を得られます。

NetBackup 5330 ハードウェアには、アプライアンスとプライマリストレージシェルフが備わっています。アプライアンスにストレージはありませんが、プライマリストレージシェルフには 114.6TB の利用可能なストレージ容量が備わっています。114.6TB の拡張ストレージシェルフも利用可能で、合計容量は 229.2TB になります。

5330 アプライアンスは、5230 アプライアンスに対する次の改善点も提供しています。

- メモリの増加
NetBackup 5330 には 384GB の RAM が備わっています。5230 アプライアンスの場合、これは 128GB でした。
- 速度の向上

5330 には 3.0 GHz 10 コアのプロセッサが備わっており、5220 の 2.0 GHz 6 コアプロセッサに比べて改善されました。

5330 アプライアンスには、外部 RAID コントローラも備わっており、このコントローラによって NetBackup 5230 の 3 倍の書き込み速度と 5 倍の読み込み速度がもたらされます。

- 追加のホットスワップ対応のコンポーネント
 5330 の外部 RAID コントローラはホットスワップ対応のため、操作を中断することなく欠陥のあるコントローラを交換できます。
- 複数の冗長データパス
 NetBackup 5330 は、すべての重要なストレージで冗長データパスを備えています。これによって、複数のコンポーネントエラーが発生した場合でも動作することができます。
- より耐性の高いストレージアーキテクチャ
 NetBackup 5330 アプライアンスの冗長コンポーネントによって、アプライアンスはハードウェアコンポーネントにエラーが発生した場合でも生産性を維持できます。この機能によって、欠陥のある部品が交換されるまで、ユーザーの操作に対するハードウェア障害の影響を最小限に抑えることができます。

表 1-1 に、NetBackup 5330 Appliance、NetBackup 5230 Appliance、NetBackup 5220 Appliance 間の違いの概要を示します。

表 1-1 NetBackup 5330 Appliance、NetBackup 5230 Appliance、NetBackup 5220 Appliance の比較

パラメータ	NetBackup 5330	NetBackup 5230	NetBackup 5220
コア	20	12	8
キャッシュ	25 MB	15 MB	12 MB
RAID キャッシュ	24 GB	1 GB	512 MB
速度 (Speed)	3.0 GHz	2.0 GHz	2.4 GHz
ターボ速度	3.6 GHz	2.5 GHz	2.66 GHz
QPI 速度	8 GT/秒	7.2 GT/秒	5.86 GT/秒
システムメモリ (GB)	384 GB	128 GB	96 GB
メモリ構成 (DIMM)	16GB x 24	8 GB x 16	8 GB x 12
最大の外部ストレージでの標準の消費電力	2442W (10.7W/TB)	1500W (9.5W/TB)	1500W (9.5W/TB)

パラメータ	NetBackup 5330	NetBackup 5230	NetBackup 5220
データ保持	RAID ごとの 1 つのリチウムイオンバッテリーのバックアップユニットから NVRAM (システムにつき 2 個)	フラッシュとスーパーキャパシタを搭載する 2 つのメンテナンスフリーのバックアップユニット (MFBU)	1 つのリチウムイオンバッテリーのバックアップユニット
PCI アドインカードスロット	6	6	5
オンボード 10 GB イーサネットポート	2	2	0
PCI アセンブリへの追加 10 GB イーサネットカード	最大 4 枚のカード (8 個のポート)	最大 1 枚のカード (2 個のポート)	最大 1 枚のカード (2 個のポート)
PCI アセンブリへの追加 1 GB イーサネットカード	不可	不可	可
PCI アセンブリの SAS RAID カード	不可	可	可
デュアル冗長外部ストレージベースの RAID コントローラ	可	不可	不可
外部ストレージ	1 つのプライマリストレージシェルフと 1 つのオプションの拡張ストレージシェルフ	最大 4 つのシマンテック社のストレージシェルフ	最大 4 つのシマンテック社のストレージシェルフ

両方のアプライアンスのハードウェアアーキテクチャについては、『NetBackup Appliance と Symantec Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

NetBackup 5330 アプライアンスのストレージユニットについて

NetBackup 5330 アプライアンスには内蔵ストレージがありません。したがって、次の外部ストレージユニットの利用が必要となります。

- プライマリストレージシェルフ
 このストレージユニットには RAID が搭載されており、5330 アプライアンスのすべてのインストールに必要となります。このユニットはファイバーチャネル (FC) ケーブルでアプライアンスに直接接続されます。NetBackup 5330 システムは 1 つのプライマリストレージシェルフユニットをサポートします。

- 拡張ストレージシェルフ

このストレージユニットはオプションで、プライマリストレージシェルフのみを搭載した最小構成システムのディスク容量を増やすことを目的としています。このユニットは、SAS ケーブルで直接プライマリストレージシェルフに接続します。NetBackup 5330 システムは 1 つの拡張ストレージシェルフユニットをサポートします。

メモ: プライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフは、NetBackup 52xx アプライアンスと互換性がありません。Symantec Storage Shelf は NetBackup 5330 または関連付けられたストレージシェルフのいずれとも互換性がありません。

NetBackup Appliance Web Consoleから NetBackup 5330 の初期構成を開始すると、[ストレージの概要 (Storage Overview)] ページが表示されます。このページによって、システムのハードウェア構成が示され、接続性や存在する可能性のあるディスクドライブの問題が特定されます。シマンテック社は、初期構成に進む前に特定されたすべての問題を修正することをお勧めします。

NetBackup Appliance Shell Menuから初期構成を実行する場合、Test hardware コマンドを手動で実行して接続性や存在する可能性のあるディスクドライブの問題を特定できます。

詳しくは『Symantec NetBackup Initial Configuration Guide』を参照してください。

NetBackup 52xx のハードウェアの機能

このリリースは、アプライアンスの 52xx ハードウェアアーキテクチャをサポートします。これらのアーキテクチャは同じソフトウェアを実行するので、次のどのモードでも構成できます。

- アプライアンスのマスターサーバー
- アプライアンスのマスターサーバーおよびメディアサーバー
- アプライアンスのメディアサーバーのみ

すべてのアプライアンスアーキテクチャは、次の特徴および機能をサポートします。

- デュアルプロセッサ、クアッドコア、Intel ベースのシステム
- それぞれに、いくつかのホットスワップ外部ドライブがある
- 外部テープドライブをサポートするファイバーチャネルの接続性
- 基本構成は、ギガビットイーサネットネットワークをサポートする
- 高性能ハードウェア RAID コントローラ
- Intel X520 SR2 10 GB イーサネットカードがシステムの標準またはオプションになっている

- それぞれが、コードベースとして NetBackup を使用する
- Linux オペレーティングシステム (シマンテック社提供)
- それぞれが、NetBackup Appliance ソフトウェアの最新版を実行できる
- それぞれが、マスターサーバーおよびメディアサーバー上のメディアサーバー重複排除プール (MSDP) ストレージをサポートするMSDP は 52xx アプライアンスの利用可能な最大ストレージ容量まで提供します。

NetBackup 5220 アプライアンスには、フォーマット済み総ストレージ容量 4 TB を提供する 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。

NetBackup 5230 アプライアンスには、1 TB と 3 TB のストレージ容量で使用できる 8 つの内部ストレージディスクドライブが含まれています。1 TB のディスクは、4 TB のフォーマット済み総ストレージ容量を提供します。3 TB のディスクは、14 TB のフォーマット済み総ストレージ容量を提供します。

NetBackup 5220 と 5230 には、追加ストレージとしてシマンテックストレージシェルフを接続できます。ストレージシェルフは 2 TB または 3 TB のディスクドライブをサポートできますが、シェルフ内のすべてのドライブは同じ容量にする必要があります。

表 1-2 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5220 アプライアンスで利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 1-2 NetBackup 5220 のストレージ容量オプション

アプライアンスのストレージドライブ (TB)	アプライアンスの利用可能ストレージ容量 (TB)	ストレージシェルフドライブ (TB)	ストレージシェルフの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ1つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ2つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ3つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ4つの利用可能ストレージ容量 (TB)
1	4.55	2	24	28.55	52.55	*	*
1	4.55	3	36	40.55	76.55	112.55	148.55

* 必要に応じて、2 TB ストレージのドライブは提供可能です。

表 1-3 に、ストレージシェルフを接続する場合としない場合に NetBackup 5230 アプライアンスで利用可能なフォーマット済みストレージ容量を示します。

表 1-3 NetBackup 5230 のストレージ容量オプション

アプライアンスのストレージドライブ (TB)	アプライアンスの利用可能ストレージ容量 (TB)	ストレージシェルフドライブ (TB)	ストレージシェルフの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ1つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ2つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ3つの利用可能ストレージ容量 (TB)	アプライアンスおよびストレージシェルフ4つの利用可能ストレージ容量 (TB)
1	4.55	2	24	28.55	52.55	*	*
1	4.55	3	36	40.55	76.55	112.55	148.55
3	13.65	2	24	37.65	61.65	*	*
3	13.65	3	36	49.65	85.65	121.65	157.65

* 必要に応じて、2 TB ストレージのドライブは提供可能です。

表 1-4は、必要なストレージ容量の達成に必要なソフトウェアのバージョンのレベルを示します。

表 1-4 最大ストレージのための NetBackup Appliance ソフトウェアの依存関係

NetBackup Appliance ソフトウェアのバージョン	接続されたストレージシェルフの最大数	最大ストレージ容量 (接続されたストレージシェルフを含む)	最大 MSDP ストレージ容量
2.5 - 2.5.4	2	76 TB	64 TB
2.6.0.1	2	86 TB (14-TB 5230 アプライアンスを含む)	86 TB*
2.6.0.2 以降	4	158 TB	158 TB*

*最適なパフォーマンスのために、MSDP パーティションをアプライアンスのストレージと拡張ストレージに分割しないでください。シマンテック社は、パフォーマンス最適化のために、MSDP パーティションを拡張ストレージに置くことを推奨します。

両方のアプライアンスのハードウェアアーキテクチャについては、『NetBackup Appliance と Symantec Storage Shelf の製品説明』を参照してください。

NetBackup Appliance 2.6.1 の新機能、拡張機能、および変更について

多くの新機能に加え、このリリースでは、NetBackup Appliance の以前のリリースからの問題点や改善点に対する多くの拡張機能を提供します。このリリースの NetBackup Appliance の新機能、拡張機能、および変更についての情報は、この章の以降のセクションで見つけることができます。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。これらの問題の多くは、Salesforce.com (SFDC) の形式で文書化されているお客様固有の問題に関するものです。このリリースに組み込まれた修正の多くは、個別のエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドル (EEB) として利用できます。EEB は、NetBackup アプライアンスソフトウェアの以前のバージョンにおけるお客様固有の問題に対処するために作成されました。このリリースに含まれているエンジニアリングバイナリおよびエンジニアリングバンドルのリストは、このドキュメントの付録「リリース内容」にあります。

NetBackup 7.6.1 は、NetBackup Appliance 2.6.1 リリースによりインストールされた NetBackup ソフトウェアのバージョンです。NetBackup 7.6.1 の新しい機能、拡張および修正については、シマンテック社のサポート Web サイトの文書 NetBackup 7.6.1 リリースノートに記載しています。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7451>

NetBackup Appliance 2.6.1 の新機能、拡張機能、変更

次のリストに、NetBackup 52xx Appliance 2.6.1 リリースの新機能、拡張機能、変更を示します。

- NetBackup Appliance 2.6.1 には NetBackup 5330 アプライアンスを導入しています。5330 では、以前のアプライアンスモデルの機能が多数強化されており、これにはストレージ容量の増加、密度の増加、メモリの増加、パフォーマンスの向上、高速化などが含まれます。
p.5 の「[NetBackup 5330 のハードウェアの機能](#)」を参照してください。
- 新しいメディアサーバー重複排除プール (MSDP) のディザスタリカバリ機能によって、重複排除ストレージプールを保護するためにポリシーが自動的に作成されます。重複排除プールカタログのバックアップポリシーは、次のシナリオで自動的に作成されます。
 - アプライアンスの初期構成で重複排除ストレージプールを作成した場合。

- 重複排除ストレージプールが存在しない場合に Manage>Storage>Resize MSDP を実行した場合。
- 重複排除ストレージプールがすでに構成されているアプライアンスをアップグレードした場合。
 このポリシーを有効化して重複排除プールカタログを保護することをお勧めします。
- MSDP はこのリリースで以下の機能強化も行われています。
 - 複数のファイルシステムのサポート
 - 日単位のシャドーコピー
 NetBackup は MSDP カタログの日単位のコピーを自動的に作成します。
 NetBackup は破損しているカタログの部分を検出すると、最新のシャドーコピーからその部分を自動的に復元します。
 - さらに最適化された複製と AIR (Auto Image Replication) のパフォーマンス
 - ディスク容量の消費量の削減
 MSDP カタログエントリの統合方法の変更により、カタログファイルシステムに格納されるファイル数が減ります。この変更により、パフォーマンスの向上、ディスク容量の消費量の削減、クラッシュ時のすばやいファイルシステムのリカバリが可能になります。
- 2.6.1 では、AdvancedDisk と MSDP のパーティションはより大量のストレージ容量をサポートするので、52xx または 5330 アプライアンスの利用可能な最大容量に拡張できます。「MSDP カタログ」という名前の新しいパーティションが追加されました。MSDP カタログパーティションには、MSDP バックアップに関する情報を含む MSDP のメタデータが格納されます。5330 アプライアンスでは、MSDP カタログはパフォーマンス向上のために Metadisk に個別に格納されます。52xx アプライアンスでは、MSDP カタログはどのディスクにも格納できます。
 詳しくは、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』の「ストレージの設定について」のセクションを参照してください。
- 2.6.1 リリースでは、コールホームと NetBackup Appliance Product Improvement Program が分離されました。以前のリリースでは、両方も有効にするかまたは両方も無効にするオプションが唯一のオプションでした。Product Improvement Program を無効にし、コールホームを有効にしたままにするオプションもあります。このオプションは、NetBackup Appliance のシェルメニューでのみ利用できます。
 詳しくは、『NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』の Settings > Alerts > CallHome コマンドオプションを参照してください。
- NetBackup アプライアンス Web コンソールに重要な拡張が導入され、アップグレード処理がより直観的になり、ユーザー体験が向上しました。
 主な拡張は次のとおりです。
 - クライアントアドオンは、NetBackup アプライアンス Web コンソールを使ってインストールできるようになりました。

- 新しい[バージョン (Version)]列が[ダウンロードしたソフトウェア更新 (Downloaded Software Updates)]テーブルと[オンラインのソフトウェア更新 (Online Software Updates)]テーブルに追加されました。この列には、ソフトウェア更新のバージョンが表示されます。
- 新しい[ダウンロードの進捗 (Download Progress)]列が[オンラインのソフトウェア更新 (Online Software Updates)]テーブルに追加されました。この列は[オンラインのソフトウェア更新 (Online Software Updates)]テーブルで[ダウンロード (Download)]をクリックすると表示されます。この列には、ダウンロード処理の進行状況と状態が表示されます。たとえば、20M/232M downloading のように表示されます。
- このリリースから、Internet Explorer 8.x は NetBackup アプライアンスのサポート対象の Web ブラウザではなくなりました。
 サポートされているブラウザを確認するには、『NetBackup Appliance 管理者ガイド』の「アプライアンスによってサポートされる Web ブラウザ」のセクションを調べてください。
- NetBackup Appliance のリリースには、復元のパフォーマンスを改善できるいくつかの変更点があります。
 クライアントのバックアップを重複排除ストレージに作成すると、そのファイルをセグメントに分割してディスクに書き込みます。ファイルを変更すると、バックアップソフトウェアはファイルの変更箇所を分析して変更したセグメントをディスクに書き込みます。ファイルをリストアする必要がある場合は、バックアップソフトウェアがセグメントからファイルを再構築してファイルを復元します。特定の状況下では、ファイルのセグメントが散在することがあります。その場合にファイルのリストアを要求すると、バックアップソフトウェアがファイルを見つけて再構築するのに時間がかかります。
 NetBackup Appliance 2.6.1 はこの機能を最適化してファイルの再構築にかかる時間を短縮するので、リストアのパフォーマンスが向上します。
- 2.6.1 リリースでは、ファイバーチャネルのサポートが拡張され、4 つのターゲットポート構成が含まれるようになりました。
 p.13 の「SAN クライアントのファイバートランスポート用の拡張されたターゲットポート設定のサポート」を参照してください。

SAN クライアントのファイバートランスポート用の拡張されたターゲットポート設定のサポート

NetBackup Appliance リリース 2.6.1 には、2 つまたは 4 つのターゲットポートのファイバーチャネル (FC) 構成のサポートが含まれます。以前のリリースでは、2 つのターゲットポート設定のみがサポートされていました。

次に、影響を受ける FC HBA カードを説明します。

- NetBackup 5220
 スロット 2 と 4 の FC HBA カード

- NetBackup 5330 と 5230

- スロット 5 と 6 の FC HBA カード

デフォルトでは、SAN クライアントのファイバートランスポート (FT) オプションは無効にされています。すべてのポートはイニシエータモードです。

オプションを有効にし、[2 つの送信先ポートのファイバーチャネルの接続 (2 target port Fibre Channel connection)] を選択すると、影響を受けるすべての FC HBA カードのポート 1 がターゲットモードに設定されます。アプライアンスは、重複排除バックアップのために、FT を使ってこれらのポートを使えるようになります。

オプションを有効にし、[4 つの送信先ポートのファイバーチャネルの接続 (4 target port Fibre Channel connection)] を選択すると、影響を受けるすべての FC HBA カードのポート 1 とポート 2 がターゲットモードに設定されます。アプライアンスは、重複排除バックアップのために、FT を使ってこれらのポートを使えるようになります。

詳しくは、『Symantec NetBackup Appliance Fibre Channel Guide』を参照してください。

NetBackup Appliance の互換性

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance 2.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについて](#)
- [ソフトウェアリリース形式について](#)
- [NetBackup Appliance リリースの互換性](#)
- [NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて](#)
- [NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知](#)

NetBackup Appliance 2.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについて

NetBackup Appliance 2.6.1 へのアップグレードは、早ければ NetBackup Appliance 2.5 からサポートされます。ただし、NetBackup Appliance 2.6.0.4 で紹介された機能の一部は NetBackup Appliance 2.6.1 GA リリースにはありません。動作の違いは、バグ修正および一部の機能に限定されます。

適切なアップグレードパスを判断するために次のアップグレードのシナリオを確認してください。

- **NetBackup Appliance 2.6.0.3** 以前を実行し、**2015 年の第一四半期**までにバージョン **2.6.1** にアップグレードしない場合は、バージョン **2.6.0.4** にアップグレードして、最新のバグ修正と互換性機能を活用することをお勧めします。このシナリオでは、サポートされる NetBackup Appliance 2.6.0.4 からのアップグレードパスは **2015 年の第一四半期**に利用可能になる NetBackup Appliance 2.6.1 **メンテナンスライン** (三重ドット) のリリースになります。シマンテック社は、ソフトウェアの **RTM (released to manufacturing)** 版がリリースされたときに、推奨アップグレードパスを提供するメンテ

ナンスリリースを公表します。更新情報については、定期的に次の技術メモを確認してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH225488>

- NetBackup Appliance 2.6.0.3 以前を実行し、2015 年の第一四半期までにバージョン 2.6.1 にアップグレードする場合は、使用環境にバージョン NetBackup 2.6.0.4 メンテナンスリリースをインストールしないことをお勧めします。

ソフトウェアリリース形式について

さまざまなレベルでの NetBackup のリリースを利用できるようにすることで、シマンテック社はお客様のニーズに対応するというポリシーを順守しています。次のリストで、さまざまなリリース形式と、それに対応するバージョン番号付与の仕組みについて示します。

NetBackup Appliance 製品ではこれらのリリース形式と番号付与の仕組みを使います。

- メジャーリリースは、一連のリリースのうち最初のリリースです。この形式のリリースには、多くの新機能や拡張機能が含まれます。
- マイナーリリースは、メジャーリリース番号の後にドットを付けた番号のリリースです。たとえば、2.6 のようになります。このリリース形式の要件は、メジャーリリースとほぼ同じです。メジャーリリースよりも小規模な新機能や拡張機能が含まれます。
- ソフトウェアリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを 2 つ付けた番号のリリースです。たとえば、2.6.1 のようになります。このリリース形式では、いくつかの新機能や拡張機能、および多くの製品の修正が含まれています。
- メンテナンスリリース更新は、メジャーリリース番号の後にドットを 3 つ付けた番号のリリースです。たとえば、2.6.0.2 のようになります。このリリース形式は主に、メジャー、マイナー、ソフトウェア更新リリースの問題に対処するために開発された修正から構成されています。このリリース形式には、いくつかの新機能や拡張機能も含まれます。

NetBackup Appliance リリースの互換性

NetBackup Appliance を使用すると、既存の NetBackup 環境に、アプライアンスをメディアサーバーまたはクライアントとしてすばやく追加することができます。

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup の NetBackup Appliance との互換性については、シマンテック社のサポート Web サイトの次の技術メモを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH136970>

Symantec NetBackup は、環境内のマスターサーバーが、同じ環境内のメディアサーバーおよびクライアントのバージョンレベルと同じかそれ以降になっているよう常に管理さ

れています。NetBackup 環境全体を最新のメンテナンスリリース (ドット 3 つ) を使用して最新に保つことをお勧めします。ただし、NetBackup ではクライアントおよびメディアサーバーがマスターサーバーと異なるメンテナンスリリースでも稼動する環境の柔軟性を提供します。たとえば、マスターサーバーで稼動中のバージョンが 2.6.0.1 (7.6.0.1) である環境の、メディアサーバーまたはクライアントのバージョンを 2.6.0.2 (7.6.0.2) にアップグレードすることが可能です。

NetBackup カタログがマスターサーバーに存在するため、マスターサーバーはカタログバックアップのためのクライアントであると見なされます。NetBackup の構成にメディアサーバーが含まれている場合、マスターサーバーと同じバージョンの NetBackup を使用してカタログバックアップを実行する必要があります。サポートしているバージョン混在については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

p.16 の「ソフトウェアリリース形式について」を参照してください。

表 2-1 に、現在の NetBackup Appliance 2.6.1 の製品ラインでサポートされるさまざまな互換方式を示します。カッコ内の数は、NetBackup Appliance ソフトウェアの特定のバージョンに適用される基本の NetBackup のバージョンです。

表 2-1 NetBackup Appliance 2.6.1 リリースの互換性

NetBackup Appliance のマスターサーバーバージョン	NetBackup Appliance のメディアサーバーバージョン	NetBackup クライアントバージョン
2.6.1 (7.6.1)	2.6.1 (7.6.1)	7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x、7.6.1
2.6.1 (7.6.1)	2.6.0.x (7.6.0.x)	7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x、7.6、7.6.0.x
2.6.1 (7.6.1)	2.5.x (7.5.0.x)	7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
2.6.1 (7.6.1)	2.5 (7.5.0.2)	7.1、7.1.0.x、7.5、7.5.0.x
2.6.1 (7.6.1)	2.0.x (7.1.0.x)	7.1、7.1.0.x

すべての NetBackup 52xx アプライアンスは NetBackup Appliance バージョン 2.6.1 にアップグレードできます。

メモ: アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.5 より前の場合は、NetBackup Appliance 2.6.1 に直接アップグレードできません。最初にバージョン 2.5 にアップグレードしてから 2.6 製品ラインにアップグレードする必要があります。

NetBackup Appliance ソフトウェアのアップグレードについて

ソフトウェアの更新リリースが利用可能なときは、インストールして最新の製品機能と修正が確実に含まれるようにすることが推奨されます。

アプライアンスソフトウェアをアップグレードするとき、更新リリースはオペレーティングシステム、NetBackup、すべてのアプライアンスインターフェースの更新バージョンをインストールすることがあります。すべてのサービスはアップグレードが始まると自動的に終了し、それからすべての更新が適用された後で自動的に再起動されます。

メモ: アプライアンスサーバーの現在のバージョンが 2.5 より前の場合は、NetBackup Appliance 2.6.1 に直接アップグレードできません。最初にバージョン 2.5 にアップグレードしてから 2.6 製品ラインにアップグレードする必要があります。

システム停止時間を最小化するため、アプライアンスのアップグレードは前もって計画することが推奨されます。

以下に、アプライアンスソフトウェアのアップグレードをどのように計画して実行する必要があるのかについて説明します。

- 常にシステムの動作状態が最も低いときにアップグレードをスケジュール設定します。アップグレードを開始する前にすべてのバックアップとリストア操作を中断することが推奨されます。
- ソフトウェアの更新を始める前に、接続が切断されないようにするための対策を取ることが推奨されます。デバイスの構成に使用するコンピュータは、スリープ、シャットダウン、電源の遮断の動作をしないように設定してください。そのようにしないと、ネットワーク接続が失われます。インストール中に接続が失われると、操作は失敗します。
- アプライアンスのマスターサーバーは常に、一緒に使われるあらゆるアプライアンスメディアサーバーと同じかそれ以降のバージョンである必要があります。このルール唯一的例外は、シマンテック社がメジャー、マイナー、ソフトウェア更新のあらゆるリリースに対してメンテナンスリリースを提供している場合です。メンテナンスリリースのバージョン番号は 4 つの数字 (2.x.x.x) で識別されます。
- アプライアンスをアップグレードするときは、アプライアンスで利用可能なソフトウェアの更新のみを使う必要があります。アプライアンスソフトウェアの更新は、アプライアンス、NetBackup、オペレーティングシステムのコンポーネントの更新から成っている完全なパッケージです。シマンテック社は任意のコンポーネント個別のアプライアンスのアップグレードはサポートしません。
- アプライアンスマスターサーバーは、必ずアプライアンスメディアサーバーをアップグレードする前にアップグレードする必要があります。

- NetBackup Appliance 2.5.x からこのバージョンにアップグレードするときに、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) は変換の完了に 13 % の空き領域が必要です。空き領域が足りない場合は、アップグレードに失敗します。
- 2.5.x から 2.6 製品ラインへのアップグレードを完了するにはおよそ 3 時間かかりますが、環境によってはそれ以上かかることがあります。その間にアプライアンスが数回再起動することがあります。これは正常な動作です。
- アップグレードを開始したら、完了するまで実行する必要があります。

メモ: アップグレードを中止しようとはしないことが推奨されます。中止した場合、予想外のシステム動作を経験することがあります。たとえば、サービスの再起動中にアップグレードが中止されると、すぐにバックアップが失敗することがあります。この動作が予想どおりですが、システムの他の部分が影響される可能性もあります。

- NetBackup アプライアンス 2.6.1 に正常にアップグレードした後で、以前のソフトウェアバージョンにはロールバックできません。

NetBackup Appliance のサードパーティの法的通知

NetBackup Appliance の製品には、シマンテック社が帰属を明示する必要があるサードパーティのソフトウェアが含まれている場合があります。一部のサードパーティプログラムは、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスに基づいて提供されています。ソフトウェアに含まれる使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権の表記およびライセンスについては、次の Web サイトにある『Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』ドキュメントに記載されています。

<http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/>

操作上の注意

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance 2.6.1 の運用上の注意について](#)
- [NetBackup Appliance 2.6.1 の操作上の注意](#)
- [NetBackup Appliance の一般的な注意](#)
- [NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意](#)
- [インストールと構成の注意](#)
- [アップグレードとロールバックの注意](#)
- [VMware に関する注意事項](#)
- [国際化とローカライゼーションの注意](#)
- [NetBackup サポートユーティリティについて](#)
- [ログファイルの使用について](#)

NetBackup Appliance 2.6.1 の運用上の注意について

この章では、NetBackup Appliance 2.6.1 の運用上、付属マニュアルの他の箇所では文書化されない可能性のある重要な点について説明します。この文書はシマンテック社のサポート Web サイトで公開されたもので、NetBackup Appliance 2.6.1 の GA リリース後更新される場合があります。そのため、次のリンクを参照して、最新のリリース情報を確認することをお勧めします。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7589>

NetBackup Appliance 2.6.1 では NetBackup 7.6.1 ソフトウェアがインストールされるため、NetBackup 7.6.1 に適用される運用上の注意は、NetBackup Appliance 2.6.1 に

も当てはまります。NetBackup の運用上の注意については、シマンテック社のサポート Web サイトの『Symantec NetBackup 7.6.1 リリースノート』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7451>

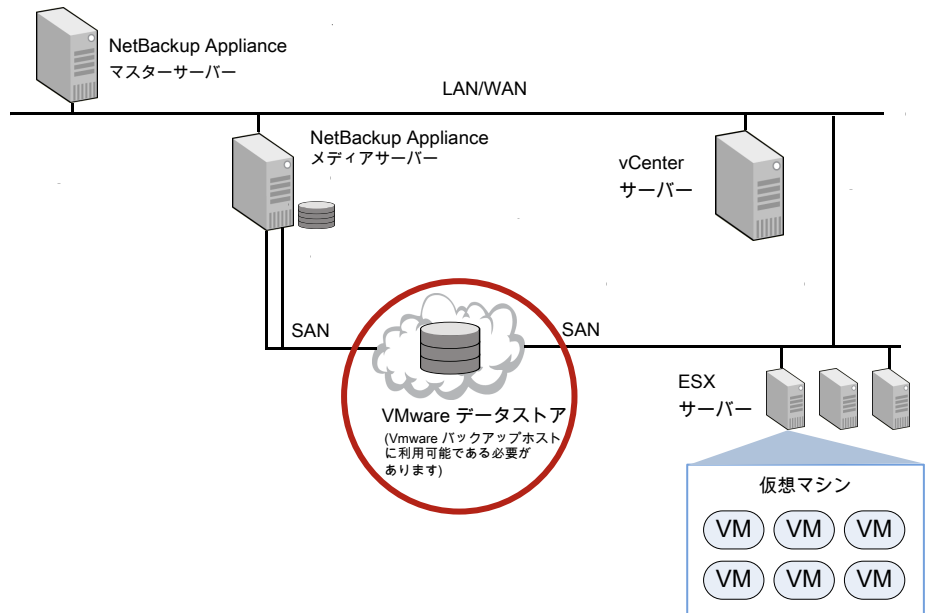
NetBackup Appliance 2.6.1 の操作上の注意

メモ: 以前のリリースの操作上の注意に詳しい方は、このセクションのこのリリースに関する新しい内容のみを確認してください。このドキュメントの付録「リリース内容」で、このリリースで解決された問題を確認してください。

メモ: このセクションに記載されている注意事項および既知の問題は以前のリリースにも該当することがあります。

次のリストに、このリリースで新たにドキュメントに追加された注意事項と既知の問題を示します。

- NetBackup Appliance 2.6.0.4 で導入された一部の機能は、NetBackup Appliance 2.6.1 リリースにはありません。このため、2.6.0.4 から 2.6.1 にアップグレードしないことをお勧めします。NetBackup Appliance 2.6.0.4 を実行している場合、サポートされるアップグレードパスは 2015 年第一四半期に利用可能になる NetBackup Appliance 2.6.1 メンテナンスライン (三重ドット) になります。
p.15 の「[NetBackup Appliance 2.6.1 リリースラインへのアップグレードパスについて](#)」を参照してください。
- NetBackup アプライアンス Web コンソールや NetBackup アプライアンスのシェルメニューで PCI ハードウェアコンポーネントの [警告 (Warning)] を受け取った場合は、PCI スロットのカードがアプライアンスのサポート対象の構成に適合していない可能性があります。『NetBackup Appliance 製品の説明』の「製品の概要」の章で、PCI スロットのサポート対象の構成を確認できます。
- VMware データストアを接続した NetBackup 5330 アプライアンスがシマンテック以外の外部 NetApp E-series ストレージデバイスの場合は、外部ストレージのアクセス LUN を 5330 アプライアンスに公開していないことを確認します。アクセス LUN を 5330 アプライアンスに公開していると、ストレージデバイスのアプライアンスハードウェアの監視やスキャンなどの一部の機能が正しく働きません。
次の図に、この問題が影響を与える環境の種類を示します。



- 状況によっては、**NetBackup Appliance NFS 共有**にアクセスできない場合があります。この問題が発生する場合は、**NetBackup Appliance シェルメニュー**を使用して、**NFS サーバー**を再起動してください。次のコマンドを使用します: [**サポート (Support)**], [**nfsserver サービス再開 (Service Restart nfsserver)**]。サーバーを再起動したら、もう一度 **NFS 共有**にアクセスしてみてください。
- セルフテスト後にジョブを実行していないのにアクティブなジョブが見つかるため、アップグレードが失敗する場合、削除すべき大量の期限切れイメージがあるか確認してください。アプライアンスまたはマスターサーバーに **NetBackupCLI ユーザー**としてログインし、**nbdelete -list** コマンドを実行します。このコマンドで大量のイメージが返される場合は、**nbdelete** コマンドを使用してイメージを削除します。次にもう一度アップグレードを試みます。

メモ: ストレージサーバーにアクセスできない場合、**nbdelete** コマンドでイメージを削除できないことがあります。この問題が発生する場合は、ストレージサーバーへの接続を確認して、もう一度コマンドを実行してください。

- アプライアンスで **eth0** ポートが設定されていない場合、**NetBackup Appliance Web コンソール**からのチェックポイント操作が機能しません。**eth0** ポートはアプライアンスの設置の一部として設定されるため、この問題はポートの設定を解除した場合にのみ該当します。

この問題が発生した場合は、eth0 ポートを設定するか、NetBackup Appliance シェルメニューを使用してチェックポイントを作成するか、チェックポイントにロールバックしてください。

- このリリースでは、アプライアンスのハードウェア監視に[ネットワークカード (Network Card)]コンポーネントの追加の情報が含まれます。[ネットワークカード (Network Card)]の[PCI スロット (PCI Slot)]が NetBackup Appliance Web コンソールの[監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)]ページおよび NetBackup Appliance シェルメニューの[監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)]コマンドで追跡されるようになりました。
- アプライアンスのディスク容量が 90% を超える場合、[監視 (Monitor)]、[ハードウェア (Hardware)]ページにエラーが表示されなくても、NetBackup Appliance Web コンソールのホームページの[ハードウェア (Hardware)]アイコンにハードウェアエラーが表示されます。ホームページに表示されるエラーは無視できます。
- LUN オーナーシップを 1 つのコントローラから別のコントローラにフェールオーバーするときに優先パスエラーが発生する場合があります。1 つのコントローラが他のコントローラをリセットして、それが原因で優先パスエラーが発生する場合があります。このエラーが発生すると、アプライアンスハードウェア監視の[ストレージステータス (Storage Status)]に[最適でない (Not Optimal)]と表示されます。このエラーは解消されるまでに数週間続く場合があります。
 このエラーが解消されない場合、すべてのパスがエラーになり、影響を受けるコントローラがオフラインになり、その結果、冗長性とパフォーマンスが低下します。この問題が発生した場合は、シマンテック社のサポートに連絡して、担当者に TECH225558 を参照するように伝えてください。
- NetBackup 5330 アプライアンスにプライマリストレージシェルフと拡張ストレージシェルフが含まれ、拡張シェルフに RAID ボリュームが設定されている場合、アプライアンスのセットアップから拡張ストレージシェルフを削除しないでください。拡張シェルフを削除すると、プライマリシェルフは拡張シェルフが電源オフになったかのように動作し、エラーが発生します。拡張シェルフを削除する必要がある場合、セットアップから拡張シェルフを削除する前に[サポート (Support)]、[RAID 解除 (RAID Clear)]コマンドを実行する必要があります。

警告: [サポート (Support)]、[RAID 解除 (RAID Clear)]コマンドにより、両方のストレージシェルフからすべてのデータが削除されます。このコマンドを実行する前に、必ず他の場所にデータを保存してください。

- シマンテック社のリモート管理インターフェースを使用して、IPMI ユーザーを作成または削除しないことをお勧めします。代わりに、NetBackup Appliance シェルメニューの[サポート (Support)]、[IPMI ユーザー追加 (IPMI User Add)]および[サポート (Support)]、[IPMI ユーザー削除 (IPMI User Delete)]コマンドを使用します。

NetBackup Appliance の一般的な注意

次のリストに、NetBackup アプライアンスの一般的な使用に関する注意事項と既知の問題を示します。

- アプライアンスの再起動中に、オペレーティングシステムがシャットダウンプロセスの最終段階でハングアップする可能性があります。アプライアンスコンソールに表示され、IPMI サブシステムを通して確認できる最後のメッセージは次のとおりです。

```
Please standby while rebooting the system.....
```

この問題が起きた場合は、安全のためにシステムの電源をオフにし、オンに戻してから再起動を完了します。

- NetBackup Appliance のこのリリースでは、アプライアンスがバックアップホストまたはリカバリホストとして使用された場合は、レプリケーションディレクタ (RD) リストアで動的マルチパス (DMP) がサポートされません。
- RAID コントローラアダプタの学習サイクルでは、2 つの電子メール警告を受信します。RAID ポリシーが書き戻しモードから WriteThrough モードに変更された際の警告と、RAID ポリシーが WriteThrough モードから書き戻しモードに戻った際の警告です。ただし、このリリースでは、BBU が失敗ステータスの場合は、1 つ目の電子メールのみが送信されます。2 つ目の警告は、サイクルが完了するとポリシーが書き戻しモードに戻らないので送信されません。
- アプライアンスのバッテリーバックアップ装置 (BBU) が再設定状態の場合、BBU の状態を示す電子メール警告が送信されます。ただし、このリリースでは電子メール警告は送信されません。

NetBackup Appliance ユーザーインターフェースの注意

次のリストに、NetBackup アプライアンス Web コンソールと NetBackup Appliance のシェルメニューに関する注意事項と既知の問題を示します。

- アプライアンスに NetBackup クライアントのアドオンパッケージをインストールすると、NetBackup Appliance の Web コンソールには不正な [アップグレード後のバージョン (Version after upgrade)] が表示されます。クライアントパッケージのインストールはアプライアンスのソフトウェアバージョンに影響しません。ただし、Web コンソールは NetBackup バージョンをアップグレード後のバージョンで表示します。
- Settings > Alerts > Acknowledge Errors コマンドおよび Settings > Alerts > ClearAcknowledgedErrors コマンドは、場合によっては無効なユーザー入力を受け入れます。これらのコマンドのいずれかを使った後、Settings > Alerts > ShowAcknowledgedErrors コマンドを使用した確認済みのエラーで何も更新されていないことを確認します。

- NetBackup アプライアンス Web コンソールの[監視 (Monitor)]>[SCSP イベント (SCSP Events)]ページにはユーザーセッションは正しく記録されません。ユーザーセッションのログインはページに記録されますが、ログアウトの情報は記録されません。
- アプライアンスインターフェースには、IPv6 アドレスからアクセスすることはできません。
- ソフトウェアの更新が正常に完了しなかった場合のロールバック処理中に、NetBackup アプライアンス Web コンソールに[アプライアンスは 2.6.1 でアップグレード状態にありません (The appliance is 2.6.1 and not in upgrade state)]という状態が一時的に表示されることがあります。また、進行バーには 100% 完了と示されます。この状況では、アップグレードは正常に完了していません。
 アプライアンスは直後に再起動しますが、Web コンソールには更新状態もプロンプトも表示されません。再起動を待って完了すると、アプライアンスに再接続できます。アップグレード中に NetBackup Appliance のシェルメニューで UpgradeStatus コマンドを実行すると、詳細情報を取得できます。
- NetBackup アプライアンス Web コンソールに、OpenLDAP および Active Directory のユーザー名が大文字と小文字を区別して表示されますが、NetBackup Appliance のシェルメニューでは区別されません。
- NetBackup Appliance のシェルメニューの Main > Settings > Security > Authentication > LDAP > Certificate set path name コマンドでは、証明書のパス名がハイフンを含んでいる場合、受け入れられません。ハイフンが含まれるパス名は、NetBackup アプライアンス Web コンソールで受け入れられます。
- NetBackup アプライアンス Web コンソールの[設定 (Settings)]>[通知 (Notification)]>[登録 (Registration)]ページから担当者の電子メールアドレスを複数追加することができません。ただし、NetBackup Appliance のシェルメニューからは、担当者の電子メールアドレスを複数追加できます。シェルメニューから複数の電子メールアドレスを追加するには、Settings > Alerts > CallHome Registration Email コマンドを実行し、複数の電子メールアドレスを、セミコロンで区切って入力します。
- このリリースでは、NetBackup Appliance シェルメニューの[メイン (Main)]>[監視 (Monitor)]>[失敗した NetBackup ジョブ (NetBackup Jobs Failed)]コマンドを実行した場合、失敗した一部のジョブの情報が表示されません。[メイン (Main)]>[監視 (Monitor)]>[すべての NetBackup ジョブ (NetBackup Jobs All)]コマンドを使うと、各ジョブの状態列を参照して失敗したジョブを確認することができます。
- アプライアンスがプロビジョニングされていない場合は、NetBackup アプライアンス Web コンソールランディングページに次の通知が表示されます。
 「コールホームサービスが機能していません。システムがコールホームサーバーでプロビジョニングされているかシマンテック社のサポートにご連絡ください。」
 ただし、この通知は表示されない場合もあります。アプライアンスの日付と時刻がネットワークタイムプロトコル (NTP) ごとに設定されていない場合、ランディングページに

は日付と時刻を更新するための通知のみが表示されます。NTP ごとに日付と時刻を設定すると、コールホーム通知が表示されます。

インストールと構成の注意

次のリストに、アプライアンスのインストールと構成に関する注意事項と既知の問題を示します。

- 以前に使用されたアプライアンスに **NetBackup Appliance** の新しいバージョンをインストールすると、アプライアンスの構成中に次のエラーメッセージを受信することがあります。

```
Cannot recover the existing MSDP partition because the NetBackup  
disk pool and storage unit could not be determined. ...  
- [Error] Could not configure the appliance.
```

このエラーは、既存のメディアサーバー重複排除プール (MSDP) のディスクプールの名前に + が含まれている場合に発生します。この問題が発生した場合、ディスクプール名に + が含まれないようにディスクプール名を変更し、手動で MSDP パーティションを構成する必要があります。Manage > Storage > Resize コマンドを使用してパーティションを構成します。

- クライアント側の重複排除操作が、状態エラー **83** が表示され失敗することがあります。

アプライアンスを構成するときに DNS を使用している場合、すべてのアプライアンスおよびマスターサーバーのネットワーク名が DNS 解決可能 (完全修飾ホスト名 (FQHN) および短縮名) であることを確認してください。DNS を使用しない場合、構成するアプライアンスに対する適切なホストエントリを入力していることを確認してください。

DNS を設定せずにアプライアンスを構成し、`/etc/hosts` ファイルに FQHN のマップに対し解決する IP アドレスがない場合、状態エラー **83** が表示される可能性があります。アプライアンスメディアサーバーの `required_interface` 変数で設定された値が短縮名で、完全修飾ホスト名でない場合、クライアントが正しく解決しない場合があります。

この問題を回避するには、その DNS および `/etc/hosts` ファイルが存在し、両方のファイルが解決可能なホスト名であることを確認します。

このエラー条件についての詳細は、シマンテック社のサポート Web サイトの次の技術メモを参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/TECH179320>

- 共有ディレクトリにソフトウェアの更新をコピーする場合、コピーが完了するまでは他のコマンドを開始しないでください。コピー処理中にコマンドを実行すると、ソフトウェアの更新がリストに登録され利用可能になったことが表示される場合があります。ただし、そのソフトウェアの更新をインストールすると失敗する場合があります。

このような問題が起こらないよう、コピー処理が完了するまでは他のコマンドを実行しないでください。

- メディアサーバーの初回構成時に「ライセンスがありません」というメッセージを受信した場合、この電子メールを無視しても安全です。この電子メールはホスト名の構成時に送信されます。新しいホスト名への変更時にライセンスキーファイルの名前が変更され、警告機構で一時的にライセンスを特定できなくなります。構成が完了すると、ライセンスは正しく設定されます。ライセンスキーは、**NetBackup アプライアンス Web コンソール**の[管理 (Manage)]>[ライセンス (License)]ページまたは **NetBackup Appliance** のシェルメニューの `Main > Manage > License > List` コマンドで確認できます。

アップグレードとロールバックの注意

次のリストに、アップグレードとロールバックに関する注意事項と既知の問題を示します。

- アプライアンスサーバーの現在のバージョンが **2.5** より前の場合は、**NetBackup Appliance 2.6.1** に直接アップグレードできません。最初にバージョン **2.5** にアップグレードしてから **2.6** 製品ラインにアップグレードする必要があります。
- アプライアンスの現在のバージョンが **2.5** で、このバージョンのアプライアンスソフトウェアにアップグレードする場合、**NetBackup Appliance** のシェルメニューを使用してソフトウェアの更新をインストールする必要があります。**NetBackup アプライアンス Web コンソール**を使用して、ソフトウェアの更新をダウンロードできます。ただし、**Web コンソール**を使用してアップグレードをインストールすることはできません。ソフトウェアの更新のインストールには、シェルメニューを使用してください。
- **NetBackup Appliance 2.5.x** からこのバージョンにアップグレードするときに、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) は変換の完了に **13 %** の空き領域が必要です。空き領域が足りない場合は、アップグレードに失敗します。
- このリリースの **NetBackup Appliance** では、マスターサーバーアプライアンスからメディアサーバーアプライアンスへのリモートアップグレードはサポートされていません。メディアサーバーアプライアンスのアプライアンスソフトウェアをこのバージョンにアップグレードするには、各メディアサーバーアプライアンスに「**admin**」でログインし、アップグレード手順を実行します。
- **2.5.x**からのアップグレードが正常に完了または正常にロールバックされた後、システムドライブの再構築が自動的に始まります。この処理は通常、**3 ~ 4** 時間程度ですが、システムの負荷によってはさらに時間がかかる場合があります。この処理中に、ドライブを取りはずさないでください。
再構築処理がシステム負荷に基づいた予測よりも著しく時間がかかる場合は、不良なドライブがある可能性があります。シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。

- 未設定のアプライアンスを 2.5.x からこのバージョンの NetBackup Appliance にアップグレードする場合は、アップグレードではなくアプライアンスの再イメージングを実行します。未設定のアプライアンスの再イメージング時にホスト名や IP アドレスなどのすべての設定が失われ、ストレージはリセットされます。
- 未設定のアプライアンスを 2.5.x からこのバージョンの NetBackup Appliance にアップグレードすると、アプライアンスに工場出荷時インストールのチェックポイントが設定されます。設定済みアプライアンスを 2.5.x からアップグレードした場合は、アップグレード後のチェックポイントが設定されます。

VMware に関する注意事項

次のリストに、VMware に関する注意事項および既知の問題を示します。

- 同時に実行される VM のリストアは、アプライアンスを SAN のリストアホストとして使用すると失敗する可能性があります。SAN のトランスポートモードを使用して複数の VM を同時にリストアすると、ジョブステータスログに、次のようなメッセージが記録される場合があります。

```
4/19/2012 1:16:14 PM - Error bptm(pid=30649) cannot write
data to socket, Connection reset by peer
4/19/2012 1:16:14 PM - Info bptm(pid=30648) EXITING with status 24
```

シマンテック社では、この問題について VMware のサポート要求: 12172237605 を発行しました。

- 次を行ってみてください。
[仮想マシンオプション (Virtual Machine Options)]ダイアログボックスで、リストアした仮想ディスク形式で[シンプロビジョニング (Thin Provisioning)]を選択してリストアを再試行します。
- それでも失敗する場合には、[リカバリオプション (Recovery Options)]ダイアログでトランスポートモードに[NBD]を選択して、再度リストアを行ってみてください。

国際化とローカライゼーションの注意

次のリストに、国際化とローカライゼーションに関する注意事項と既知の問題を示します。

- NetBackup Appliance のシェルメニューのユーザーインターフェースはマルチバイト文字を入力したり修正できないので、どの言語にもローカライズされていません。
- アプライアンスの構成を完了した後に、英語以外の文字が NetBackup Appliance のシェルメニューユーザーインターフェースで表示されません。
この問題は、NetBackup Appliance の初期構成中に、NetBackup アプライアンス Web コンソールを使うと起きます。[登録 (Registration)]ページで、アプライアンスの

登録で英語以外の文字を入力すると、英語以外の文字がシェルメニューのインターフェイスに表示されません。

- 英語版以外の Windows システムに NetBackup-Java 管理コンソールをインストールして NetBackup アプライアンス内部の NetBackup サーバーを管理する場合に、NetBackup サーバーにログインしようとするコンソールがハングアップする可能性があります。この問題を避けるには、次の回避策を講じます。

- NetBackup-Java 管理コンソールをインストールしている Windows システムの `install_path¥Java¥setconf.bat` ファイルを修正して、適切なエンコードで `NBJAVA_FILE_ENCODING` パラメータを設定します。SystemLocale コマンドを使ってアプライアンスシステムで以前に設定したエンコードと同じエンコードを使います。

コード名を判断するには、次の Web サイトで Supported Encodings 文書の Canonical Name for java.nio API and java.lang API 列を参照してください。

[Oracle Supported Encodings 文書](#)

たとえば、アプライアンスシステムで `zh_CN.utf8` や `ja_JP.utf8` のような UTF-8 ロケールを設定した場合は、`java.nio API` と `java.lang API` の正規名は UTF8 になります。

次のように `install_path¥Java¥setconf.bat` ファイルの `SET NBJAVA_FILE_ENCODING` パラメータをコメント解除し、(この例では) UTF8 を指定します。

```
REM SET NBJAVA_FILE_ENCODING=
```

次のように指定します。

```
SET NBJAVA_FILD_ENCODING=UTF8
```

SystemLocale コマンドについて詳しくは、『Symantec NetBackup Appliance コマンドリファレンスガイド』または『Symantec NetBackup Appliance 管理者ガイド』の「アプライアンス Web コンソールのログインページについて」の節を参照してください。

NetBackup サポートユーティリティについて

NetBackup Appliance は NetBackup の問題の診断に役立つ次のサポートユーティリティを提供します。

- 「[NBDNA \(NetBackup Domain Network Analyzer\)](#)」
- 「[NetBackup サポートユーティリティ \(nbsu\)](#)」

NBDNA (NetBackup Domain Network Analyzer)

NBDNA ユーティリティを NetBackup プライマリまたはセカンダリアプライアンスで実行して、次のタスクを実行することができます。

- ネットワーク関連の問題を解決するための **NetBackup** ドメイン構成の識別
- **NetBackup** パフォーマンス問題の識別
- ホスト名参照に関する動作が機能するかどうかの確認
- **NetBackup** ドメイン内でのルールに基づき、**NetBackup** ホストとアプライアンス間の接続性が確立され、正しく機能するかの確認
- シマンテック社のテクニカルサポートのためのレポートの生成

NBDNA ユーティリティは出力で次の形式の情報を提供します。

```
Running audit as Media Server.
```

```
Collection Version: x.x
  Collection Time: Tuesday, October 7, 2010 at 19:17:11 PM
    NBU Release: NetBackup-SuSE2.6.16 7.0.1.5
      NBU Version: 7.0.1.5
NBU Major Version: 7.0
NBU Minor Version: 1
  NBU Patch Type: GA
  NBU GlobDB Host: "host name"
    Is GlobDB HOST? No
      UNAME:
        Hostname: sample.name.symantec.com
  Host's Platform: Linux
  Perl Architecture: Linux
```

```
Initialization completed in 14.040101 seconds.
```

```
Brief Description of What It Does (for type 1):
```

- ```

```
- 1) Perform basic self checks.
  - 2) Check connectivity to Master (and EMM) server.
  - 3) If SSO configured, get list of media servers sharing devices.
  - 4) Get list of all clients which could send data here for backup.
  - 5) Test NBU ports for basic connectivity between media servers sharing devices.
  - 6) Test NBU ports for basic connectivity between media server and clients it backs up.
  - 7) Perform service level tests for phase 2
  - 8) Capture data for reports; save reports.
  - 9) Save data to report files.
- ```
-----
```

```
Discovering and mapping the NetBackup domain network for analysis
by extracting data from current system's configuration.
  (To see more details, consider using '-verbose' switch.)

Probing Completed in 4.695464 seconds.

Initiating tests...

COMPLETED. Thank you for your patience.

/log/dna/sample.name.symantec.com.NBDNA.20100907.191711.zip
Archive created successfully!
Return /log/dna/sample.name.symantec.com.NBDNA.20100907.191711.zip
to Symantec Support upon request.
```

NetBackup サポートユーティリティ (nbsu)

nbsu ユーティリティを使うと、NetBackup とオペレーティングシステムについて適切な診断情報を収集できます。『Symantec NetBackup トラブルシューティングガイド』では、このユーティリティを使う状況およびその実行方法について説明しています。

その他の利用可能なサポートについて

NetBackup Appliance の追加のサポートが必要になった場合、シマンテック社のテクニカルサポートに問い合わせてください。現在有効なサポートについての同意事項をお持ちのお客様は、次の URL でテクニカルサポートにアクセスできます。

www.symantec.com/business/support/

NetBackup Appliance 固有の情報は、次の場所にあります。

go.symantec.com/nba

ログファイルの使用について

問題を定義してトラブルシューティングするときは、潜在的に有益な情報の取得を常に試みてください。NetBackup Appliance では、ハードウェア、ソフトウェア、システム、パフォーマンス関連データを取得できます。こうしたログファイルは、アプライアンスの実行状態、未構成ボリュームまたはアレイなどの問題の有無、温度に関する問題、バッテリーが見つからないなどの情報を取得します。こうしたログファイルは、特定のディレクトリに保存され、次の方法を使用してアクセスできます。

表 3-1 に、アプライアンスの各種ログにアクセスするために使用できる方法を示します。

表 3-1 ログファイルの表示

取得元	方法	収集されるログ
NetBackup Appliance Web Console	NetBackup Appliance Web Consoleの[ログファイルを収集 (Collect Log files)]ウィザードを使用して、アプライアンスからログファイルを収集できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup のコピーログツールが作成するログ (nbcplogs) ■ 高可用性、ハードウェア、イベントログが記録されるアプライアンスのログ ■ オペレーティングシステムのログ ■ メディアサーバー重複排除プール (MSDP) 関連のすべてのログ ■ NetBackup アプライアンス Web コンソール関連のすべてのログ ■ NetBackup およびオペレーティングシステムについての診断情報 ■ ハードウェアおよびストレージデバイスのログ
NetBackup Appliance Web Console	NetBackup Appliance Web Consoleの[モニター (Monitor)]> [SCSP 監査ビュー (SCSP Audit View)]画面を使用して、アプライアンスの監査ログを取得できます。	NetBackup Appliance の監査ログ
NetBackup Appliance のシェルメニュー	Main > Support > Logs > Browse コマンドを使用して、LOGROOT/>プロンプトを開きます。ls や cd のようなコマンドを使用して、アプライアンスのログディレクトリの操作や各種ログの取得を行えます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ NetBackup Appliance の構成ログ ■ NetBackup ログ、Volume Manager ログ、openv ディレクトリに含まれている NetBackup ログ ■ NetBackup Appliance のオペレーティングシステム (OS) インストールログ ■ NetBackup 管理 Web ユーザーインターフェースログと NetBackup Web サーバーログ ■ NetBackup 52xx アプライアンスのデバイスログ

取得元	方法	収集されるログ
NetBackup Appliance の シェルメニュー	Main > Support > Logs > VxLogView Module ModuleName コマンドを実行して、 NetBackup Appliance VxUL (統合) ログにアクセスすることができます。Main > Support > Share Open コマンドを実行し、デスクトップを使用して、VxUL ログのマップ、共有、コピーを行うこともできます。	NetBackup Appliance 統合ログ <ul style="list-style-type: none"> ■ All ■ CallHome ■ Checkpoint ■ Commands ■ Common ■ Config ■ CrossHost ■ Database ■ Hardware ■ HWMonitor ■ Network ■ RAID ■ Seeding ■ SelfTest ■ ストレージ ■ SWUpdate ■ Trace
NetBackup Appliance の シェルメニュー	Main > Support > DataCollect コマンドを使用して、ストレージデバイスログを収集できます。	NetBackup 5xxx ストレージデバイスログ
NetBackup Java アプリケーション	NetBackup Java アプリケーションに関する問題が発生した場合、このセクションのスクリプトを使って、サポートに連絡するために必要な情報を集めることができます。	NetBackup Java アプリケーションに関するログ

リリース内容

この付録では以下の項目について説明しています。

- [現在のリリースの内容について](#)
- [NetBackup Appliance 2.6.1 のリリース内容](#)

現在のリリースの内容について

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。このセクションには、NetBackup アプライアンスのこのリリースで解決された既知の問題が示されています。

メモ: この章では、NetBackup Appliance 限定の修正のみを説明します。NetBackup アプライアンス 2.6.1 リリースには、NetBackup の 7.6.1 に含まれるすべての修正も含まれます。NetBackup 7.6.1 の修正の完全なリストについては、シマンテック社のサポート Web サイトの『NetBackup 7.6.1 リリースノート』を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7451>

この NetBackup Appliance 2.6.1 リリースは、NetBackup Appliance 2.6 リリースおよび関連するメンテナンスリリースへのアップグレードです。以前のリリースの修正や拡張すべてを参照するには、シマンテック社のサポート Web サイトの以下のリリースノート文書を参照してください。

<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>

アプライアンスがリリースされると、NetBackup の最新バージョンが、アプライアンスコードの構築の基盤として使用されます。これにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup 7.6.1 は、NetBackup Appliance 2.6.1 リリースによりインストールされた NetBackup ソフトウェアのバージョンです。NetBackup 7.6.1 の新しい機能、拡張およ

び修正については、シマンテック社のサポート Web サイトの文書 NetBackup 7.6.1 リリースノートに記載しています。

<http://www.symantec.com/docs/DOC7451>

また、NetBackup Appliance の互換性に関する最新情報については、シマンテック社のサポート Web サイトの NetBackup サーバー 7.x ハードウェア互換性リストを参照してください。

www.netbackup.com/compatibility

NetBackup Appliance 2.6.1 のリリース内容

このリリースでは、NetBackup Appliance ソフトウェアに存在するいくつかの既知の問題を修正しています。

一部の問題は特定、解決されました。EEB の形で利用可能です。次のリストでは、これらの問題は識別のための Etrack 番号を含みます。このドキュメントが送信された後で、追加の EEB がリリースされている可能性があります。このセクションにある解決した問題について詳しくは、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) を参照してください。SORT にアクセスするには、次の Web サイトに移動します。

<https://sort.symantec.com/netbackup>

次のリストには、解決された既知の問題およびこのリリースの NetBackup Appliance に含まれている既知の問題が掲載されています。

- 以前のリリースでは、VM インスタントリカバリには Windows ベースの VMware リカバリホストが必要でした。この依存性はなくなりました。このリリースでは、Windows または Linux のリカバリホストにより VM インスタントリカバリを使用できます。
- EEB Etrack 番号: 2879388
NetBackup Appliance バージョン 2.0.3 の FT (Fibre Transport) コンポーネントの修正です。この修正を行わないと、AIX `cfgmgr` はアプライアンスが提示する FT ARCHIVE Python のターゲットデバイスを検出できないことがあります。
- EEB Etrack 番号: 2970466
Media Server Deduplication Pool (MSDP) を使用する際に、宛先サーバーにおける自動イメージレプリケーションのインポートのパフォーマンスを向上します。
- EEB Etrack 番号: 2986964、2986967、2986969、2986970
NetBackup Product Improvement のログが正しくクリーンアップされないで、ルートパーティションが満杯です。Product Improvement Program もプロキシサーバーを正しく使いません。
- EEB Etrack 番号: 3395880
システムの再起動後、5020 アプライアンスはターゲットモードからイニシエーターモードに戻ります。

- EEB Etrack 番号: 3570768、3592475、3646847
EEB を適用したら、bpbkar と nbrestore のラップを再実行する必要があります。
- EEB Etrack 番号: 3631498、3631602、3633387、3633388、3633389
セキュリティの脆弱性 CVE-2014-7169 に対処する bash Update

関連ドキュメント

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup Appliance のマニュアルについて](#)

NetBackup Appliance のマニュアルについて

次に挙げるマニュアルを参照すると、アプライアンスの正常なインストール、設定、使用に役立ちます。これらすべてのマニュアルは、次の URL でアクセスできるシマンテック社のサポート Web サイトで入手できます。

<http://www.symantec.com/docs/DOC2792>

表 B-1 NetBackup Appliance のマニュアル

ガイド	説明
Symantec NetBackup™ アプライアンスハードウェア取り付けガイド	このガイドは次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none">■ アプライアンスハードウェアの物理的なレイアウトの紹介。■ 開梱の手順、環境条件、安全上の注意事項などの設置準備手順。■ ハードウェア構成手順 このセクションは、ラックにアプライアンスを設置し、アプライアンスケーブルを接続するために必要な手順について説明します。
Symantec NetBackup™ アプライアンス初期構成ガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance Web Console、または NetBackup Appliance Shell Menu の構成プロセスが記載されています。
Symantec NetBackup Appliance アップグレードガイド	このマニュアルには、NetBackup Appliance のアップグレードに必要な手順が記載されています。

ガイド	説明
Symantec NetBackup™ Appliance 管理者ガイド	『Symantec NetBackup™ Appliance 管理者ガイド』には次の種類の情報が記載されています。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 配備情報 ■ アプライアンスの管理 ■ 監視情報
Symantec NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド	『Symantec NetBackup™ Appliance コマンドリファレンスガイド』には、NetBackup Appliance Shell Menuから使うことができるコマンド一覧が掲載されています。
Symantec NetBackup Appliance リリースノート	このマニュアルには、このバージョンの NetBackup Appliance に関する情報が記載されています。リリース中の新機能の簡単な説明、リリース更新に適用される操作の注意、既知の問題が含まれます。
Symantec NetBackup Appliance トラブルシューティングガイド	このマニュアルには NetBackup Appliance に関する最新のトラブルシューティング情報が記載されています。
Symantec NetBackup 容量計画とパフォーマンスチューニングガイド	この文書には、NetBackup Appliance およびバックアップ環境を最適化する方法に関する情報が記載されています。これにより、バックアップ要件を分析し、各自のニーズに最適なシステムを設計できます。
Symantec NetBackup Appliance セキュリティガイド	このドキュメントには NetBackup Appliance のセキュリティ機能、およびこれらの機能を使ってアプライアンス環境の安全性を確保するための方法が記載されています。
Symantec NetBackup Appliance Fibre Channel Guide	このマニュアルには、NetBackup Appliance のサポート対象ファイバーチャネル (FC) の機能と設定が記載されています。
Symantec NetBackup Appliance Decommissioning and Reconfiguration Guide	このマニュアルには、NetBackup Appliance の廃止と再構成の方法が記載されています。
Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices	『Symantec NetBackup Appliance Third-party Legal Notices』のマニュアルはこの製品に含まれているサードパーティソフトウェアをリストし、サードパーティソフトウェアの属性を記載しています。 このマニュアルは次の Web サイトから利用可能です。 http://www.symantec.com/about/profile/policies/eulas/

アプライアンスハードウェアについて詳しくは、次のマニュアルを参照してください。

- Symantec NetBackup 5220 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 製品説明

- Symantec NetBackup 5230 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 製品説明
- Symantec NetBackup 5330 アプライアンスと Symantec Storage Shelf 製品説明
- Symantec NetBackup 52xx と 5330 のアプライアンス、Symantec Storage Shelf の安全と保守ガイド